

下の文章にある MM1 などの用語の意味はファイル「反復練習のやり方」を見てください。  
※はページの最後に解説があります。

☆は別にファイルがあります。

## 辞書形を教える

### 1. 導入

辞書形の導入は教師の一人二役で行う。教師は学生の側から見て、右を向いて立つ。そして、仮想の相手に向かって発話する。「私は写真が好きです」

次に教師は少し右に移動し、左を向いて立つ。そして、わからないふりをしながら、「写真を撮ります、好きですか？写真を見ます、好きですか？」と尋ねる。

最後に元の位置に戻って、「私は写真を撮るのが好きです。」と答える。

その位置で学生たちをゆっくりと見回し、理解を確認する。全員が理解しているのが確信できたら反復練習に移る。

模範文「写真を撮るのが好きです」MM3+WCR

### 2. 1 グループの辞書形・ルールの説明

次に 1 グループの辞書形の作り方についてルールの説明を行う。「ルールの説明」の段階では、活用形の作り方と名称と使い方をこの順で教える。

教師は「『とります』、マスの前のひらがなは何ですか。」と言いながら次を板書する。

とります

学生の「『り』です。」という答えを引き出す。最初、学習者は「マスの前のひらがな」という言葉の意味がわからないかもしれない。この場合は、あわてず、にこにこしながら、身振り手振りなどとともに再度質問を発声し、意味をわからせる。

教師は「そうですね。『り』です。『り』は『らりるれる』ですね。」と言いながら A のように板書。

A ら  
とります  
る  
れ  
ろ

B り  
とります  
る  
れ  
ろ

C り  
とります  
る 辞書形(じしょけい)  
れ  
ろ

T「『ます』さよなら…」で、「ます」を消す。

T「『らり』と『れる』もさよなら。」と言いながら、「らり」と「れる」も消す(B)。

T「『とる』、これは辞書形です。」と言いながら、「辞書形(じしょけい)」と板書。

T「じゃ、いっしょに言いましょう。『とる』」T1SC1

最後に、使い方を説明する。学習者の日本語能力はまだ不十分なので、彼らの反応をよく見ながら、ジェスチャーも交え、ゆっくりはっきり発話する。

T「文の終わりは、『とります』です。『私は写真をとります』ですね。でも、文の中は辞書形です。『私は写真をとるのが好きです。』」

T「日本語の辞書の中に、『とります』はありません。『とる』があります。だから、これは辞書形です。いいですか？」(学生を見回し、理解確認。)

T「じゃ、いっしょに。『私は写真をとるのが好きです。』」T1SC1

ここまでにかかる時間は 10 分くらい。

「辞書形」は、学校文法の連体形と終止形を合わせたものである。初級前期、最初に辞書形を導入する段階では、連体形の用法のみを教える。上の説明はそれに則っている。終

止形を後回しにする理由は次のとおりである。

①終止形などを文末に用いるカジュアルな会話は適切な場面で適切に使わないと相手を不快にする場合がある。初級レベルの学習者は、「です」「ます」の会話を教えた方が「安全」である。

②カジュアルな会話では、終止形などとともに「よ」「ね」「ぞ」などの終助詞が頻繁に使われるが、これらの終助詞の用法を、初級者に直接法で教えるのは不可能である。

### 3. 1グループの辞書形・語変換

辞書形セットを提示する。辞書形セットは、辞書形で練習に使用する動詞の絵カードをA4サイズにコピーしたものである。私は辞書形セットとして次のような語を選んだ。

撮る・切る・聞く・行く・泳ぐ・急ぐ・歌う・立つ・呼ぶ・読む・話す

集める・換える・着る・借りる・できる・来る・洗濯する・掃除する

これらの絵カードを上順番に並べ、左下をホチキスで閉じる。教壇近くに立って辞書形セットをクラスに提示する。セットを学生全員が見えるように提示することを強く意識する。一枚ずつ無言で提示し、それをキューとして学生たちに辞書形を言わせる。この段階では1グループの動詞のみを見せる。これを2, 3サイクルやる。「とる」で導入しているので、「とる」と「切る」は簡単に言えるはずだが、「聞く」を見せるときは学生が戸惑うことがあるので注意する。多くが戸惑っているようだったら、カ行の動詞についても辞書形への変換の仕方を、口頭または板書で説明する。「切る」は頭高になることに留意し、そう指導する。

学生がスムーズに言えるようになってきたら、同じセットを利用して個人練習に移る。学生一人を指名し、その学生に動詞の絵カードを無言で提示し、辞書形を言わせる。1グループの動詞の絵カードを順番に提示し、学生を順番に指名する。これも2, 3サイクル行う。個人練習の場合も絵カードは全員が見えるようにする。

練習セットの動詞の選択基準は次の通り。

- ①1グループはすべての行を網羅する。ただし、ナ行（つまり「死にます」）は除外していい。
- ②基本的な語。
- ③直近の新出語。
- ④アクセントに注意すべき語。辞書形の場合は、「切る・着る／返る・換える」（「飼う」と「買う」）。
- ⑤意味的に必要なもの。たとえば、受け身では、「怒る」「ほめる」など。
- ⑥活用の例外。たとえば、テ形では「行く」、ナイ形では「ある」「吸う」、命令形では「くれる」など。

学生がスムーズに言えるようになってきたら、辞書形練習シート☆を配布する。辞書形練習シートの1から25（1グループの動詞）に記入するように指示する。学生が書いている間机間巡視し、学生が正しい答えを書いていることを確認する。この部分にかかる時間は20分、授業開始からの積算は30分。

### 4. 2, 3グループの辞書形・ルールの説明と語変換

T「『食べます』は2グループですね。」と言いながらAを板書。

A 食べます た	B 食べます た る
----------------	------------------

T「2グループはやさしいです。『ます』さよなら。『る』こんにちは。」  
と言いながらBを板書。

T「『食べる』は辞書形です。」 「食べる」 T1SC1

## 辞書形を教える

「imas」の例外（上一段動詞）についても適宜ピックアップし、それが1グループでなく、2グループであることを強調しながら、ルールを教える。

T「『借ります』はimasです。でも、『借ります』は1グループじゃありません。2グループです。だからルールはやさしいです。」そして、「『ます』さよなら。『る』こんにちは。」と言いながら、「食べます」と同じように板書。

T「次です。『来ます』は3グループですね。」と言いながらCを板書。

T「『来ます』は『来る』」と言いながらDを板書。「来る」T1SC1

C 来ます き	D 来ます→来る き                    く
---------------	---------------------------------------

「する」も同様に行う。

辞書形セットの後半、2, 3グループの部分を次々に提示し、学生に辞書形を言わせる（全体練習）。ふつうは1サイクルでいい。動詞セットの中に新出語が多い場合、2サイクルか3サイクル行う。次に同じセットを使って個人練習を行う。

辞書形セットの練習に区切りがついたら、辞書形練習シートに戻り、26から最後まで動詞を辞書形に変換するよう指示する。机間巡視し、学生が正しい答えを書いていることを確認する。この部分にかかる時間は10分、最初からの積算は40分。

### 5. 復習

辞書形セットで1,2,3グループの辞書形を通して口頭練習する。全体練習を2, 3回、個人練習を1, 2回行う。

アクセントによって意味が違うことを認識させるため、アクセント練習用に「切る（頭高）」「着る（平板）」／「帰る（頭高）」「換える（平板）」などの絵カードのコピーを別に準備し、アクセント練習専用にする。他のミニマルペアとしては、「飼う（頭高）」「買う（平板）」もある。これらの発音、アクセントの違いに気を付けて言わせるほか、教師の発音を聞いて、指定された側の手を上げる聞き取り練習もある。たとえば、「切る」を左手、「着る」を右手とし、教師が発声して、学生に手を上げさせる。アクセント練習には時間をかけた方がいい。この部分にかかる時間は15分程度。最初からの積算は55分。

### 6. 文型・ルールの説明

「写真を撮ります+好きです」は「写真を撮るのが好きです」（2文結合のキュー）

### 7. 制限文作り（口頭練習）

次の内容の絵カードを提示し、それを叙述する文を口頭で作らせる。全体練習（2, 3サイクル）と個人練習（2, 3サイクル）を行う。

- ・写真を撮るのが好きです。
- ・絵を描くのが好きです。
- ・ピアノをひくのが好きです。
- ・料理を作るのが好きです。
- ・寝るのが好きです。
- ・食べるのが好きです。
- ・切手を集めるのが好きです。
- ・日本語を勉強するのが好きです。
- ・車を運転するのが好きです。
- ・散歩するのが好きです。

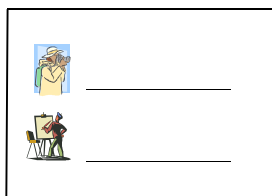


6と7にかかる時間は15分くらい。最初からの積算は70分。

## 8. 制限文作り（書写練習）

文練習シートを配布し、文を書かせる。「文練習シート」は、上の7で使った絵を縮小し、紙の上に貼りつけたもの。学習者たちはその横にその絵が表す内容を文にする。

机間巡視し、正しく書いているかチェックする。学生を指名し、ホワイトボードに答えを書かせるなどして、答え合わせをする。この部分にかかる時間は20分程度。最初からの積算は90分。



## 9. 文作り

自分の趣味、好きなことについて自由に文を書くよう指示する。教員は机間巡視し、学習者の例文をチェックする。時を見計らって書いた例文を発表させる。20人くらいのクラスでは全員のチェックをすることは難しい。一部の文は発表の時点で直すことになる。書いた文は時間がかかっても全員に発表させる。この部分にかかる時間は15分。最初からの積算は105分。

### 10. 同じ文型の他のことば

他の言葉（・嫌い・上手・下手）を使った同じ文型の文を提示する。例文を提示し、簡単に発音練習を行い、文を作らせる。この部分にかかる時間は15分。最初からの積算は120分。

### 11. まとめ

辞書形、ナイ形、バ形、意向形、命令形、タイ（「飲みたい」）、可能、受身、使役を教えるとき、「おぼえさせる」ための練習は次のような流れになる。

- ・導入
- ・反復練習（MM3+WCR）
- ・動詞1グループの規則の説明
- ・活用形セットによる口頭練習（全体・個人）と活用形練習シートへの記入
- ・動詞2,3グループの規則の説明
- ・活用形セットによる口頭練習（全体・個人）と活用形練習シートへの記入
- ・文レベルの規則の説明
- ・文変換セット（全体・個人）による口頭練習と文練習シートへの記入
- ・文作り

タイを除き、全て肯定文のみによる練習である。学習者はすでに、否定文、YN 疑問文、Wh 疑問文などの運用能力は十分持っているため、これらは「おぼえさせる」ための練習では扱わない。